

## 令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	血圧上昇因子群の脳内作用機構に関する統合的研究
研究代表者	野田 昌晴 (東京工業大学・科学技術創成研究院・特任教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、食塩感受性高血圧の病態生理の中で、中枢神経系が有する役割の解明を目的としており、応募者が発見したNaチャンネル分子であるNaxの役割を中心に、レプチンによる血圧上昇機構とレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の活性化による血圧上昇機構について、レプチン、アンジオテンシンII及びアルドステロンの脳内における受容部位の同定とシグナル伝達経路の解明を目指している。</p> <p>食塩感受性高血圧の病態生理における中枢神経系の役割の解明により、食塩感受性高血圧の発症機構を理解するにあたって、独創性の高い重要な学術的知見が得られるものと期待される。また、Naxとレプチン・RAASなどとの相互作用の解明は、難治性高血圧の新たな治療法の開発につながる可能性が大きい。</p>